

## 平成 27 年度文学研究科共同研究経費申請書

下記の通り文学研究科共同研究経費を申請します。

<b>研究代表者 (申請者)氏名</b>	古後奈緒子	<b>専門分野・ コース名</b>	文化動態論アート・ メディア論	<b>職名</b>	助教
<b>研究課題名</b>	芸術を介して生み出される空間の公共性についての学際的研究(仮題)				
<b>研究目的</b>					
〔研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。〕					
<p><b>【目的と意義、予想される成果】</b></p> <p>芸術鑑賞の少なからずは、他者とともにする時間と空間の体験と重なり合っている。このことをひとたび意識すれば、居合わせる他人どうしの間で生じる協働や摩擦の調整、行為や心理における集団化や孤立化などの現象が、作品の享受と連動する興味深さに気付く。個と集団の感性と行為が織りなす空間の現象について、ボディアートやアクションイズムなどを含む芸術史上および現代の範例に観察する一方で、それらを美学、社会学、政治学、哲学などの観点から批判的に検討し、論理の複合する空間の現象を解きほぐすことが本研究の目標となる。</p> <p>ドイツの演劇学の創始者 Max Herrmann が演劇空間について美学的に考察した 1929 年当時、それは専ら作家、演出家といった作り手にとっての空間を意味していた。これに対し、観客の「参加」への関心と実作における比重が高まりゆく今日の演劇と美術においては、作家の視点と技量で作込まれた空間を鑑賞者が一様に体験するといった捉え方はもはやできない。鑑賞者に個人の視点や記憶に拠る感性的判断を促しつつ、見知らぬ他者と多かれ少なかれ協働するタスクを課す作品は増加の一途をたどっている。その作品に関わらなければ出てこなかったであろう「声」が複数響き合う空間を生成する作品が国際的に高い評価を得、それに伴い手法も多様化している。一方で、観客の参加やボランティアの労働力に依存する作品やプロジェクトの増加につれ、作家と観客の関係性に含まれる格差や一方通行、組織される集団における権力の集中や、同調と均質化の作用などが問題視されてもきた。このような芸術の社会化の一端において出てきた「共動」「協働」をめぐる問題を、複数の社会領域の論理が交差する空間とそこでの力作用を受けて動く身体を手がかりに記述、整理する学際的な研究交流の場を設けることは、空間の公共性、会衆の幸福な共存の要件の探求という点において、社会全般にも資する意義を持つと考えられる。</p> <p>成果の期待される方向性は二つある。一つは公共性の概念や思想をアップデートし鍛えることで、従来の公共性についての議論を踏まえることで、新たな現象に、これまでにない公共性の認識への契機を見いだすことができるのではないかと考えられる。また、グローバリゼーションの中で見直されている共同体意識と、空間の体験から生成するその関係を問うことも考えられる。</p> <p><b>【新規科研費獲得に向けた準備状況】</b></p> <p>本研究は、平成 25 年に田中均准教授が研究代表者を務めた「芸術における「参加」の問題—美学理論と演劇研究からのアプローチ—」における成果のうち、美学史における「観客」および「公衆」をめぐる概念規定や議論を受け、発展させるものである。</p> <p>また本研究は、舞踊学における共同体と他者という主題への関心の高まりと、舞踊史研究におけるモダンダンスや 19 世紀バレエ再考の成果も踏まえ、昨年度科研費、挑戦的萌芽研究に応募し不採択となった「マスの身体を組織する ハスライター、ホーフマンスタール、ラバンにみる共同体と他者」における、モダニズムの舞踊構想と共同体意識に関する歴史研究と接続し、今年度も応募できればと考えている。</p>					

## 研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（次ページの支出計画欄に記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

7月12日に、第一回目研究会発表者である美学、演劇学、舞踊学研究者が集まり打合せを行う。

9月6日（土）に演劇学、舞踊学の領域で芸術における集団性を専門とし、先駆的な研究成果を持つアイケルス氏の基調発表を中心に、研究会を行う。（ドイツ語原稿はあらかじめ日本語に訳し、日本語原稿はドイツ語要旨を作成しアイケルス氏に渡す。議論は逐次翻訳する。）

カイ・ファン・アイケルス「想像の身体と想像の共同体」

古後奈緒子「パフォーマンスにおける身体技術と空間の公共性の関係」

11月28日（土）は、美学、社会学、哲学の研究者による発表会およびディスカッションを行う。（日本語のみ）

本間直樹「ビデオカメラが編み直す身体」

田中均「芸術の美的体制における「公共性」の問題」

篠原雅武「人工都市の空間論」

吉澤弥生「芸術における「協働」の問題と可能性」（仮）

3月に、発表のプロトコルあるいは議論を受けて改訂した論考を、報告書として発行する。これについては、文学研究科芸術祭〈声なき声、いたるところにかかわりの声、そしてわたしの声〉芸術祭 III において古後が担当する事業のドキュメントブックへの寄稿というかたちで収めることを考えている。

### 【研究経費の必要性・妥当性】

国内旅費：吉澤氏の東京からの往復旅費と宿泊費を9月6日、11月28日両日について計上する。

外国招聘：アイケルス氏の研究滞在を延長せしめるための復路の旅費および9月6日の東京からの旅費を計上する。

人件費謝金：9月6日の1.5時間×3名の逐次通訳料を、事前の翻訳料も込みで計上する。

招聘外国人滞在費：アイケルス氏の9月6日の宿泊を計上する。

## 研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
古後奈緒子	*	文学研究科・アート・メディア論・助教	舞踊史・美学
カイ・ファン・アイケルス	*	ベルリン自由大学・客員教授	演劇学・舞踊学
篠原雅武	*	国際公共政策研究科・特任准教授	哲学・思想史
田中均	*	文学研究科・准教授	美学
本間直樹	*	コミュニケーション・デザインセンター、文学研究科・准教授	哲学
吉澤弥生	*	共立女子大学文芸学部・准教授	社会学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。記入欄が足りない場合は追加してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

## 研究スケジュール

時期	内容
H.27.7/19	第一回研究会打合せ
H.27.9/6	第一回研究会
H.27.11/28	第二回研究会
H.28.3.30	ドキュメントブック刊行

※記入欄の数・幅が足りない場合は適宜追加・拡大してください。

研究経費の支出計画 (単位：千円)

設備備品費			千円
旅費	国内出張	(東京-大阪)往復 1泊×2回×1名	45千円
	海外出張		千円
	外国招聘	(東京-ベルリン)復路+(東京-大阪)往復×1名	105千円
人件費	人件費		千円
	謝金	通訳逐次×4.5時間	28千円
事業推進費	消耗品		千円
	印刷製本		千円
	通信		千円
	会議		千円
	招聘外国人滞在費	1名×1日+日当	14千円
その他	翻訳謝金 外国語→日本語 6枚	18千円	
合 計			210千円

外部資金獲得・応募状況 (最近5年間のものまたは応募予定のもの)

外部資金の名称と研究期間	研究課題名・研究代表者氏名	全研究期間の総研究費 (単位：千円)	採否	本申請との関連性
科学研究費補助金・若手(A) 2013-15年度	芸術における「参加」の問題 —美学理論と演劇研究からのアプローチ・田中均	5,690	採 択	<u>参加者として、問題意識を本研究に受け継ぎ展開を試みている。</u>
科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究H. 26年度	マスの身体を組織する ハスライター、ホーフマンスタール、ラバンにみる共同体と他者・古後奈緒子	2,690	不 採 択	<u>身体技術と共同体の組成の関係を主題とする点で共通する。</u>
科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究H. 27年度	マスの身体を組織する ハスライター、ホーフマンスタール、ラバンにみる共同体と他者・古後奈緒子	未定		<u>身体技術と共同体の組成に関する構想を、本共同研究で得られる芸術学以外の理論と照らして鍛えたいと考えている。</u>